

11 情報発信

1 第4回スーパーグローバルハイスクール（SGH）研究発表大会

- (1) 日時 令和元年12月19日（木） 10:50～12:40
 (2) 会場 千葉県立成田国際高等学校 文化ホール
 (3) 目的 2年生代表生徒および卒業生による研究発表・ディスカッションを通して、本校の課題研究の成果を学校内外に発信する。また、1年生は1月27日に実施する校内発表会の参考とする。

(4) 内容

【SGH活動報告・5年間の総括】本校の課題研究（概要と総括）

【代表生徒による発表】2年「課題研究活用」選択者

テーマ	概要
(1) ロールプレイ・コント 「英単語テストはなんであるの？」	今回の発表全体を貫くテーマ「なぜ？」を考える大切さにつながる導入
(2) 発表 「大学が...絶対??」	大学受験に関して、「主体性評価」の問題を取り上げた
(3) 発表 「なんで英語を勉強するの？」	英語を学ぶ意義について、生徒の視点から考えた
(4) トークセッション 「学びのスタンスとしての探究」 (進行：福西教諭)	研究のふりかえり「探究」が日常の中でどう生きている？ 一年生へのメッセージの3つトピックに沿って、卒業生と2年生が意見を交わした

【講評】植木 和司郎（SGH運営指導協議員・Global Link実行委員会日本事務局長）

小松 俊明（本校SGH総括アドバイザー・東京海洋大学教授）

今年度は、研究発表大会としては異例のコントから始まった。1年生に身近な話題を通して「疑問」を持つことの大切さを考えてほしいという2年生の思いが込められていた。質疑応答では、「受験のためのボランティアも、主体的な判断ではないか？」「将来の自分を形づくる手段として大学を考えるなら、打算的なボランティアに意味はない。」という鋭い応酬があり、また、「外的動機づけ」・「内的動機づけ」という言葉を交えて教員がコメントする場面もあった。最後のトークセッションでは、「日々の生活に疑問をもつ」「おかしいことははっきりいう」を強調する卒業生の言葉に、1年生は熱心に耳を傾けていた。

今大会の刺激もあり、1月27日（月）の校内発表会では、例年以上に1年生の研究に対する積極的な姿勢が見られた。



2 外部大会への参加

期日	大会名	発表者	発表テーマ
11月2日(土) 聖徳大学	高校生の体験発表会	生徒4名 (1グループ)	マレーシア体験紀行 *副学長賞
12月15日(日) 立教大学	第4回関東甲信越静地区 高校生探究学習発表会	生徒15名 (3グループ)	所詮,他人事ですか マレーシアの環境問題にふれて *優秀賞(日本語ポスター)
			「あなたは何人ですか?」に潜む アイデンティティと“ハーフ”の複雑性
			”マレーシア人”とは One Malaysia から考える共生のかたち
12月23日(日) 文部科学省 筑波大学	全国高校生フォーラム ポスターセッション	生徒1名	“Familiar Foreigners” Multicultural Coexistence in Housing Complexes
3月28日(水) 日本地理学会 予定	高校生ポスターセッション	生徒2名 (1グループ)	“Familiar Foreigners” Multicultural Coexistence in Housing Complexes